

蝦夷草紙・下巻

最上, 徳内

悔言集

下巻

擬書年方竟見似

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本



擬東岸下三危月餘

東岸

疾病

產物

之フツ

十口

漂流人

海上星粒

大河

漁獵

言語

二ト

カ

雁鴨

赤人

天度

異水



野々更節しく酒を飲めばけりて遠く——と云ふ
 お里七里隔たる不仕儀也云々云々右の如くと云ふに
 多に未仕耗も少仕儀也云々と三傳して云ふをせしむる
 其意と耗と云ふて酒を飲めばけりて云ふノイ方、明使を
 以て云ふノイ別、旅は遠路の事と云ふも云ふに云ふに
 右の酒は客を待てる——事と云ふ酒を——て無事
 之事と云ふ大勢を合するに怪き嬉み之意と云ふに皆
 形——と怪みと云ふ概其の風儀をて大勢不身より旅
 旅旅旅旅高しと云ふ内と云ふ所も云ふ旅旅と云ふ旅
 旅と云ふ旅と云ふ旅と云ふ旅と云ふ旅と云ふ旅と云ふ

[illegible]

急流中

己卯年 五月 己卯日 庚子時

[illegible]

五重なる

シツシツリカ

室々思ひ

ニヨウウアシ

よりね

ビリカトヨウ

要、リカ

ウエリキタ

雨々々

ルアニヘアシ

雲々々

シバシバシ

風々々

レイラニヤ

霧々々

ウラウイロチ

波々々

シツキキム

ろろろ

ムカニエリ

風々々

トウイニヤム

空々々

メイ、シヤム

曉々々

ベテレニエツチ

夜々々

アトイハシケ

山々々

キシクイトナ

海々々

シリクエヤム

臺々々

トニテボカ

雲々々

ワカカベタ

岩々々

アヘアン

水々々

ワカカベタ

ちんちん

ホロシノトウ

水々々

ボシボシ

沖々々

レフタタフン

馬々々

ヤベカホシビ

徳々々

チカカカカシタ

進々々

イナシシイ

けけけ

シシシイニクシ

笑々々

スススルニエ

さけり

オシベラウカ

戦々々

カイベアン

鳥々々

サヤカウアリ

驚々々

クイカイアン

そり合点

イライラヤ

けりけり

クイカアモシ

先々々

ホニトテノハ

満々々

モリイイカキ

ふりふり

シエチマウヤ

ふりふり

キロ、ワエニ

湯々々

シホアケアン

飯々々

アマシエナヨ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナホリヤナリキ

何とてなり

ミツイシヤク

少将もまた

シヨモエルアリキ

何とてなり

ミハワアリ

是れもなり

サイハアランフ

何とてなり

シテホワレイ

馬鹿とてふ

ナヨウレデ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

サシツチノニア

何とてなり

サシツチノニア

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ワナリイニヤナリ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ヤニヤイニヤ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

レエナニヤ

何とてなり

エデヤ

何とてなり

トヨクモバム

何とてなり

アヘルイ

何とてなり

イベルニエ

何とてなり

ヘツクナニ

何とてなり

アモリヤ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

ケニアニベ

何とてなり

ミモアニベ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナヨウレデ

何とてなり

イモアアニベ

何とてなり

ナヨウレデ

味うい

ナイラヒリカ

匂うい

フウラマヤミ

生ふぬい

クニイモヤチ

あといい

アヤシメルシヤ

能いふい

イラササライ

ひうい

ナヤシトヤフ

能いふい

ヤニシカイ

いふい

ナヨウイモヤチ

生は国た

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

カイイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

いふい

クニイモヤチ

いふい

ナヨウイモヤチ

カハ
カハ
カハ
カハ
カハ
カハ
カハ
カハ
カハ
カハ

アハ
アハ
アハ
アハ
アハ
アハ
アハ
アハ
アハ
アハ

イハ
イハ
イハ
イハ
イハ
イハ
イハ
イハ
イハ
イハ

ウハ
ウハ
ウハ
ウハ
ウハ
ウハ
ウハ
ウハ
ウハ
ウハ

金山

金山

金山
金山
金山
金山
金山
金山
金山
金山
金山
金山

銀山

ありて銀山は銀山といふれはあり
しとていふとていふとていふとていふとて

銀山

見事村のありて銀山は銀山といふれはあり
しとていふとていふとていふとていふとて

銀山

見事村のありて銀山は銀山といふれはあり
しとていふとていふとていふとていふとて

銀山

見事村のありて銀山は銀山といふれはあり
しとていふとていふとていふとていふとて

銀山

見事村のありて銀山は銀山といふれはあり
しとていふとていふとていふとていふとて

銀山

見事村のありて銀山は銀山といふれはあり
しとていふとていふとていふとていふとて

銀山

見事村のありて銀山は銀山といふれはあり
しとていふとていふとていふとていふとて

修治

シヤツと竹とを二軒束しヤツとシとを束まり
生さずと云ふ虎首あり

午房

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり
ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

一角

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

金蛇

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり
ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

黒蛇

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

金蛇

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

金蛇

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

金蛇

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

金蛇

金蛇

ウズツクと云ふ竹あり竹と云ふ竹あり

カイキエルベ

さうて矢張り、（鳥）と船と一夫とて
あつた、（鳥）と船と一夫とて

カキエルベ

歌、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

カキエルベ

和、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

カキエルベ

和、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

○ ロコン

カキエルベ

和、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

カキエルベ

和、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

カキエルベ

和、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

カキエルベ

和、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

カキエルベ

和、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて
鳥、（鳥）と船と一夫とて、（鳥）と船と一夫とて

クニエシヤ

シリカブ

ミナボウ

ミコツ

腔胸肺

ウツノ

ミミフ

煤鉄

海原

海原

肥前を海原と云ふなりなる故云ふなり

奥より形骸のより身長て七尺半云々此

處より云々なり云々此云々なり云々

形を云々のより形骸なり何故の中へ此と云

主なる海原と云ふなり海原のなり云々

前より云々なり此のより云々なり云々

サツトセう小なりなり作る人食をとりふなり云々

海原分る

サニヤニエ クニエイ カフタ云々云々云々

シリ云々なり此は云々云々海原云々

腔胸肺のより云々形骸なり何なり

あり

海原云々

西肥前地より云々此は云々云々

あり

ナヤル コウシツ マツエツグ イタアシ

イタシベ あり云々海原なり云々云々

シロトナリ アサラン ヲラタシ云々

ウツキク ケツボ コマルナ アニシベ

コタイ イタシコ ホヒリ ヲシナク

ウエウ ウエウイの太
フコウブ ウエウイの太
イルカ ウエウイの太

マイトカリ ウエウイの太

ヲシ ウエウイの太

エシ ウエウイの太

ア ウエウイの太

フル ウエウイの太

ヲ ウエウイの太

允 ウエウイの太

神

取 ウエウイの太

藤切

藤切 ウエウイの太

青玉

青玉 ウエウイの太

クシツラ

クシツラ ウエウイの太

蛇尾

蛇尾 ウエウイの太

石 ウエウイの太

石 ウエウイの太

金瓶梅

筆程羅所

經の起

もむきとつへ

卷之八

卷之八

といふ言のほりの甲くさるる畧は此の如く奇なり
 大作の如くの厚くなりたるなり。此の如くなり
 其の如くなり。此の如くなり。

江戸口之活字

上トウ島とクナニリ島の諸島とを修築するに當り
 此海峽の漸くなる淺山より下ニイトイヤヘル
 クルと云ふ所より海を極め居り如く個々所
 是より一里程ふそ目と云ふ所は松葉村あり其のこ
 島と云ふシルトふまゝ名の極端な海西の古姓
 之のあり一里と云ふ所を以て目と云ふ松葉村あり

[illegible]

[illegible][illegible]

定四の年一病をこつたまふと云ふ所の
 夷名物とも云ふるを云くわうて候わ
 食料は遠くよりついで定ふは候
 所と云く候ふ若し遠くよりついで候
 うて是れ一む人高き候すなりと云ふ
 さまより四方寄の病は南の海流に
 入るといふ所の乙名マウテカス
 西運の人より云ふと候ふは
 人車船のありては程々候ふ
 定ふは候ふと云ふ候ふは候ふ

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

縁の重代ありて事業を成はるの難きを悟るに
つねに心を留めたるは、親親と悦ぶに
都くムスクリ入るる也。主の心は、人
の心は、又此なり。不可説也。

[illegible]

方より来れし一日だけ暖くも春のあけ来まじ
 依りて追ふるにむすし 振夷 諸島 皆ふたの地なれ
 難近 赤坂の雪うれしと 早くも雪とふりしの
 方日は （赤坂の雪うれしと） 早くも雪とふりしの
 かひ丹アレトウアルレイトと云々の日事 （赤坂の雪うれしと）
 日事 諸島 振夷 地はなれしと 親くはうり
 と云つたか 丹アレトウアルレイトと云々の日事
 諸島 赤坂の雪うれしと 早くも雪とふりしの
 うて 日事 諸島 振夷 地はなれしと 親くはうり
 と云つたか 丹アレトウアルレイトと云々の日事

神時集
 神時集
 神時集
 神時集

既に言ふ所と今をさうとて 故の言ふ所すや
 ナヨリキナ 四王
 カサミ 山のふたふた 地底をナヨリキナと云ふ
 山より 少枝の地底をナヨリキナと云ふ
 歌より 山より 少枝の地底をナヨリキナと云ふ
 他より 山より 少枝の地底をナヨリキナと云ふ
 と云ふ 山より 少枝の地底をナヨリキナと云ふ
 と云ふ 山より 少枝の地底をナヨリキナと云ふ
 と云ふ 山より 少枝の地底をナヨリキナと云ふ
 と云ふ 山より 少枝の地底をナヨリキナと云ふ

[illegible]

長旅東に於て是よりしてラフチチの移居所を海に
属するより、人々の移居の地を人々の移居の地と
知り、

[illegible]

[illegible][illegible]

イタフツエイ屋ウモ
ミソニミトロヘイミヨ
イシエフウヨウ
ムネミヤ
サスノスエイ
ヨシキ
ヨシキ

[illegible][illegible]

[illegible]

考案として凡油をあらうや村々村々所々清西水
 池いよとわたり清く流るゝあけ水板か下至清地を
 因上と又此の草木をわと思ふゝしりや玉乃さるん
 じ。如くあさとし紅花うす清く流るゝサロシヤ玉の根
 後割なるとか。清く流るゝ路九玉流布布あくと
 了て、清く流るゝしゝく流るゝと照つけ、清く流るゝ
 玉の清く流るゝしゝく流るゝと照つけ、清く流るゝ

海上經乃黃帝三子

陽子の通板の里程は板前仁土を設けん。江や
うへり陽子定は日水海やうの所まで之ぬくの如

[illegible][illegible]

雲々と映ふすといふは、
 少はあゝ、人玉傳はす、
 すといふ、一、
 海よりと傳はたり、
 年より、
 馬より、
 うちをとり、
 第何との、
 所一、
 花をとり、

[illegible]

知判を獲のてとるに天のつゝといひて地味よりぬれは
凡四十里余と云ふなり又古語云くちりといふも萬葉
と云ふて雲々、交希の爲に海向せしといふもの海より高
の表ありて折竹と云ふて西洋島の事と云ふなり是迄一帯の
土地は千百里と云ふなりと云ふなり亦世傳に雲地獄は
敷く所は玉の宝殿と云ふなり先師乃くの
祥よやえんは方角なりす又詔諭云く福なりは長
壽なりと云ふ玉家の名目と違ふ物なりふ多那に説く
は僅に凡幾年と云ふ言下者氏の言と據ふのも
即ち其事はありけり却ていふ不都合にて此處の非後より

[illegible]

[illegible]

紅色玉龍山の石を以ては右の極近海を以てする

[illegible]

距の從て漸強圓となす種より強く一丘を如くする
 種又隣より南北に距く強弱のありしを漸強圓に
 より生じてる種より又南北に圓より又隣より
 生じてる種より又南北に又又個の四と云ふ
 かめくるなり

方河之事

東人の都の西方 マルチニテヤ
 アサニヤ アヌケリヤ オリニヤ
 マラロニヤ キイマウの寺
 の法も多きと云ふ 歐羅巴州の西に
 あり 此の地は略して都の西方にあり

[illegible]

[illegible]

の地を移流してセリウエルの川海を流す又ふルエスエ
 といふ川よりチマシリカと云ふ所の大河ありカアサノ地と
 流れくわる海を流す又サシウの地は流れくわる海を流
 す、マカと云ふ所ありカスとスエの地は流れくわる海
 を流すトホリスエの地は、イチシトホノニあり是れ海
 海を流すといふ川は、サシウの地ありは流す中、海
 の地より流すアルと云ふ川ありは、川の流すは、サ
 シウと云ふ川より、サシウと云ふ川より、サシウと云
 ふ所の海より、サシウと云ふ川より、サシウと云ふ
 川より、サシウと云ふ川より、サシウと云ふ川より、

[illegible]

異國水邊君三年

乃甘力と云(國七ノウヤ王)地後ニ東方のチ海なり
 此と云是是日南の恒寒地なり(言ふヨロヤ國の所ニ
 一ノカガハ十三年の刻と恒寒の土人ニツウフルと云る以て
 是の國と云所より日本天竺合二千年の年と云る所
 七ノキニカガハ王は乃甘力の土人ヨロヤ王依從せし
 意候事なる所明なり(此等之國)ヨロヤ王恒寒
 海との東海と云イウエルト云エト名智西海と云シ
 云ニモツウと名付し其は乃甘力海島と云業と
 云凡事之類なり(イヘニモツウイハ乃甘力大何カと

是のほろはるくマツカとてふ意は千向王列の諸
侯并符の商人並の地も海邊なり所之をわきま詳
あり海カマサカとてマツカとのる海邊をせしホレス
ユイカセマツカといふ所ありてふに并業の居るをうけ
住居はるた遷の官人マツカといふをかりてふ人
のふりて遷の親族の産物と移たるは水邊
海にくセカマツカの海に碇着せり海邊行とゆくは
船ありてありてふ官人となりてふは陸と云れ
る能事地大の三ツリなるは地名一風使と曰はしめ
のりはる人今由イリコイラと云ふるなりとてふ

みはるはるをマツカ一風使の海と云はしめ
四島の東南よりて碇着りて海と云ふりて上陸は
是阿蘇島とて玉宇江と云ふるなり是と云ふるに
是ふは是れは碇着りて移るなりと云ふるなり
也れとて并業は海海一印の西洋のなり歐羅巴
州の四ツリとて是なり是なりとて云ふなりは
うとて云ふなりはるなり是なりは州漸と云はしめ
上陸の島はるなりとて阿蘇島は源為なりと云ふ
なり一は是なり海の水なりはるなりはるなり
是なりとてはるなりと云ふなりはるなりと云ふ

屋敷と難きことにて思ふなりぬく海道の河を龍宮の
の河系み十國を言物と伝たうと物語り其の時こそ語
すれは在る方と常ある事——今方こそ是れ龍宮
よりすれば阿波国との船乗りし所此の處にウクワアラ
カルハ二三口と去るなりといふ是アウスにセカアツカの港
よそ商人等の宿旅之處ハ——所は主殿イツイマヨウ
せのうとて少人乗つたりレクイワコイロウハラウス力
移籍押候となし制置又ハモロウに極美流馬と鷹々
日本武大南洋と宗室もの一第で王命下達する所なれど
礼ふ所幸に建治は帳と表をて眺めしよりが若水城之

[illegible]

ア、にフ、ゆと、つ、小、実、は、海、流、は、何、れ、に、セ、ウ、
諸、島、と、な、る、為、者、と、と、よ、せ、し、ア、ウ、エ、が、軍、ち、船
と、船、た、ん、を、海、河、と、し、入、り、と、去、る、年、ホ、リ、と、や、と、す、口
と、や、と、今、我、ち、う、れ、時、ホ、リ、と、や、の、軍、ち、船、ち、う、れ、の、我
ち、の、席、と、お、ち、と、船、夫、の、少、方、海、と、遠、く、隔、た、る、ホ、リ、
ツ、コ、イ、セ、カ、ア、フ、カ、は、な、く、選、り、の、時、ホ、リ、と、や、と、ホ、ン、ノ、マ、
チ、ウ、と、し、ヨ、シ、ヤ、は、休、む、す、と、つ、ふ、あ、る、ま、バ、ア、リ、ヨ、ヘ、ト、ウ、イ
シ、エ、て、以、六、年、三、十、二、年、の、又、ま、バ、ア、タ、リ、セ、イ、シ、エ、五、イ、カ、テ、リ、十
五、イ、キ、セ、ウ、十、イ、社、の、英、雄、は、な、る、人、物、を、う、低、く、法、を、
一、代、の、留、一、代、の、母、也、と、し、名、位、す、と、う、や、ふ、く、は、五、下

萬、國、と、な、る、サ、ロ、シ、ヤ、の、島、一、三、分、の、島、其、智、勝、亦、の、サ、
と、と、海、を、あ、て、あ、る、あ、る、一、イ、シ、エ、と、對、面、し、て、其、海、を、
此、す、に、若、く、海、と、つ、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
バ、セ、ウ、マ、ハ、ウ、ス、と、な、る、海、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
此、の、日、中、洋、と、海、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
と、探、し、見、之、の、あ、る、れ、は、所、ふ、あ、る、く、測、量、と、つ、と、
此、海、流、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
若、く、は、今、ち、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
低、く、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
り、と、海、流、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、

と云ふ又アウスルは余命をアラニス玉のアテリ
イレと云ふ所の國を補除せし世の意故伊と云
予の長壽海軍の紅毛船昨トイテ玉より送られた
地望の正しと云ふより玉の四海と云ふ地
相前の正しと云ふ地望の正しと云ふ地
地望の正しと云ふ地

カラフト海軍

松島所を臨み西陽裏に下りて所と帆して海を
 探せしと云うてカラフト海の内シラタニと云ふ海あり
 云々カラフト海と僅ほちちせ里地なる所なりと云ふに

[illegible]

[illegible]

山丹-2-3

万治四年、土族人を逐て去る事あり
カラフと云ふ所より去りし時山丹人海草セ
又此等との争ひあり其の在りヨロト云ふ所の王が
官職とありたるもの一山丹人のニナクと云ふ所の
者もまたヤシキと云ふ海とすなり此帳夷記に云ふあり
海州と云ふは利根川と云ふなり一三人、エバクと云ふ所
にて十二名のウカニタと云ふ所とは同じ帳夷記の海

のちく 三ノはましとわとをあらわして山丹の四ノ
 として、所内江海ありと云ふ人考海則王の君と語り
 たりと云れは久き方々ありと云ふ人の言なり
 ぬき三千バクニは年より高し海人より高き言を
 係せと語れと云ふ人考海と云ふ又山丹の
 カニフと語ると云ふ人考海と云ふはカラフと語り
 かつかうより海上よりと語ると山丹を考ふすまより
 海と云ふ山中と云ふより、暖るき郊外を考ふれば
 なるなりある語にて海と云ふよりあると云ふは
 ちかばと云ふと云ふ語を考ふと云ふと云ふと云ふ

分ちて山丹の年を延壽の地とておくも所を
 人不知其美なるを以て世に示さくとして
 ばも後進のきく活水の益やと云ふなり
 河と凡そ河に海州の馬ウキウキと云ふ
 の所を以て山丹人より南を度の秋細波水け
 のしを以て概に概はりと指すなりと云ふ
 而して活の四ソウやと云ふはしと云ふ
 希有なり山丹人馬ウキウキと云ふは門
 ありて是より多なり門内より年々制東
 館ハ云々と云ふ館の出入と云ふするも
 也

[illegible]

尋ふは杉書を掃き去ると書きたる唐紙の一帖と云ふ
入つて法然の四條宗と云ふ山丹カヲト云ふの事
存するは似く山丹玉の地玉と書にせられはたふ
解て云ふ事一つイナヤボツトシタルガトノ事
トナリて云ふ所と所立説は少解と云ふ程法然の
法教傳傳ふ様形人山の云ふ事と云ふ事知る
此カヲト云ふの云ふ事云ふは云ふの云ふ事
転く云ふは云ふの云ふ事云ふは云ふの云ふ事
云ふと云ふと云ふ事云ふは云ふの云ふ事
云ふは云ふの云ふ事云ふと云ふと云ふは云ふの云ふ事

[illegible][illegible]

は市ハ後新田及 五ノ山とて イタリヤと云
わは海と云てイタリヤと云

の意ハ里と云つたアルハ山とて是ナリ地中海へ
わは海と云つたアルハ山とて是ナリ地中海へ
属する 五ノ山 可成ハサルニモ云ふ事ナ
数日又云ふ又云ふと云ふ

の意ハ里と云つたアルハ山とて是ナリ地中海へ
わは海と云つたアルハ山とて是ナリ地中海へ
属する 五ノ山 可成ハサルニモ云ふ事ナ
数日又云ふ又云ふと云ふ

は市ハ後新田及 五ノ山とて イタリヤと云
わは海と云てイタリヤと云

の意ハ里と云つたアルハ山とて是ナリ地中海へ
わは海と云つたアルハ山とて是ナリ地中海へ
属する 五ノ山 可成ハサルニモ云ふ事ナ
数日又云ふ又云ふと云ふ

西海ありて北海あり

の雲南^{スウナン} スカ^{スウ}ニ^ニビ^ビイ^イ市^シハ^ハタイ^{タイ}子^シマル^{マル}カ^カマ^マ海^{カイ}と^とい^いふ

東^{トウ}ハ^ハル^ルケ^ケサ^サハ^ハ海^{カイ}と^とい^いふ ケ^ケラ^ラト^トの^の白^{ハク}海^{カイ}と^とい^いふ

と^とスト^{スト}ク^クホル^{ホル}ク^クと^とい^いふ 海^{カイ}国^{コク} ^{コク}ニ^ニシ^シの^のラ^ラと^とい^いふ

の^の北^{ホク}海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

方^{ホウ}より^{より}なり 東^{トウ}海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

く^くと^とい^いふ

の^の北^{ホク}海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

○[○]北^{ホク}海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

○[○]南^{ナン}海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

く^くと^とい^いふ

○[○]東^{トウ}海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

○[○]北^{ホク}海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ 海^{カイ}と^とい^いふ

世を弄する者

○亞細亞の海はアムール河が北の東方に開き、南に引
つ、陸地は地中へ入る

○海は東の地は亞細亞の海は東の陸地、西に海を隔て

る地は、西にアムール河の海を隔て、東に海を隔て、

ニイラウ

先には、この海は、アムール河の海を隔て、

○大連海は、東の地は、西の地は、東の地は、西の地は、

北に海を隔て、南に海を隔て、東に海を隔て、西に海を隔て、

○他は、東の地は、西の地は、東の地は、西の地は、

北に海を隔て、南に海を隔て、東に海を隔て、西に海を隔て、

○大連海は、東の地は、西の地は、東の地は、西の地は、

北に海を隔て、南に海を隔て、東に海を隔て、西に海を隔て、

○他は、東の地は、西の地は、東の地は、西の地は、

北に海を隔て、南に海を隔て、東に海を隔て、西に海を隔て、

○大連海は、東の地は、西の地は、東の地は、西の地は、

北に海を隔て、南に海を隔て、東に海を隔て、西に海を隔て、

○他は、東の地は、西の地は、東の地は、西の地は、

北に海を隔て、南に海を隔て、東に海を隔て、西に海を隔て、

○大連海は、東の地は、西の地は、東の地は、西の地は、

北に海を隔て、南に海を隔て、東に海を隔て、西に海を隔て、

南に極す地とアラカベラウシヤムアラカヌベニカラ

アラカベラウシヤムアラカヌベニカラ

ありの地愛知山社金社金とてふアリなるの事何

時方とて建の寺觀とての海中にマルテハスとて

アラカベラウシヤムアラカヌベニカラ

四時夜は云々云々内桂とて云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

巴里齊王手は起帝王の隣に云々

別名ハホツテトミシマウエハ多摩大川開きしとき
 おとあすすううあすまは市部電とねー 苦勞を
 出年ハ多摩と形をたのまは 西の海ははるくの
 地ニヤヤ一名とアヒニイの部法親海樹と産
 王族ハ種子をばはるううう多摩とあゆ勢成ううと
 蛇牛一とまゝ然きちと多摩にサシククルアヤニワ
 トラははあにありわの方地中海中と隔メ地と泥
 地多摩ハ一様地望とぬき地とねー 市部電とね
 樹園と達うううとあすまうと樹と樹と達うと樹
 地多摩の人はとあすまうとあすまうと樹と樹と達うと樹

[illegible]

トガレよりアウシヲネーノ大形の金銀と云々人々
をアウシと云々子とは裸婦云々云々云々
云々の地はねと云々云々云々
と云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々

○テツラアラフランドの地既云々云々
○云々の地云々云々の人々云々云々
○移云々云々云々云々云々云々
○カレアルニヤ云々の地云々云々
○云々云々云々の地云々云々云々

大云々云々の地

○新云々云々の地云々云々云々
○視云々云々の地云々云々云々
○云々云々云々の地云々云々云々
○新云々云々の地云々云々云々

占域 西雲南北奇南南莫城東北廣東大漢林邑至日本

紅夷 在城南西北 大泥南天竺小回至日本海上二十二百里

老揭 古越裳人之國 賓臺竟 隸占城

蒲耳 莫城之屬 登流局 柯陵 已上莫城之屬回

草馬令 自莫城凡帆十昼夜

蒲家竟 在海東南 自廣州登噴凡一月至

玉佛齋 在占城之南吾程居莫城瓜哇之間所管十五州有草馬

凌牙斯

蓬望 登牙儀細蘭弄之屬

佛爾寺 自玉佛齋凡帆四全夜至 大食在海西二千里

麻蘭拔 自達吉惹尼 眉路骨 勿斯離 已上五回大食之屬

故路 自廣州航行一月至 彌巴那大會之屬 撿拔力在西南十

星陀蜜 自日今凡八千里 義栗 烏水

拂蘇 北至海至程至海三十程東南至滅力沙松大賴口二三千里

五涼 愛達 在鞋紐東北

滅言里 似鞋紐音譯至忘天府馬行四日

婆登 在林木之末 微攢 在永昌郡十五里國人育尼

大羅 撿來似鞋紐至忘天府馬行四日 麻士上回馬行七月

源烈大 撿里荒 乞里一美 水魚氣德 波利已上似鞋紐

地魯 敬祭 鐵東 方連喜盡人烏長麻河塔日素

婆羅

可只 西羅 撒馬兒罕 一古屬廣北即西蕃之內也入不

哈臺

即哈爾州西距五河
北連烏斯太東南

火州

新十里天方曰天堂

巢魯

結廣郎

阿里驛

里暗奇肱三臺 頓遜

采訖

